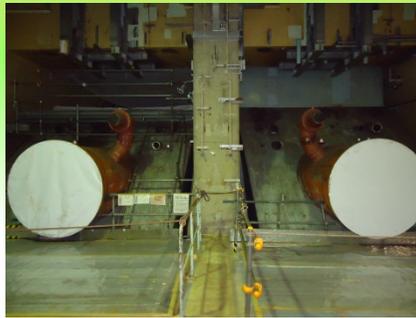


原子炉廃止措置研究開発センター

○「ふげん」プラント状況 紹介



【左/B - 復水器撤去前 右/A - 復水器 (地下1階)】
(撮影日 平成24年3月)

【左/B - 復水器撤去 右/A - 復水器 (地下1階)】
(撮影日 平成24年12月12日)

「ふげん」の復水器は、蒸気タービンの真下に位置し、タービン建屋の地下1階から2階(放射線管理区域)にかけて2つの復水器が取り付けられています。このうちB - 復水器本体の中間部分の胴体(地下1階設置部分)が解体、撤去され、建屋内の一部が空洞の状態になりました。

国際原子力情報・研修センター

○エネルギー研究開発拠点化計画の一環として、エネルギーや環境に関する学校教育への支援を行っています



【「福井県中学校理科研究大会」ブース出展】
(撮影日 平成24年11月2日)



【越前町立朝日中学校3年生 出前授業 「放射線とわたしたちの生活」霧箱実験の様子】
(撮影日 平成24年11月16日)

編集後記

みなさんは今日、何回「ありがとう」と言いましたか？ また、何回「ありがとう」を耳にしましたか？ 「ありがとう」は数ある日本語の中でも、発する側も受ける側も最も心地良い言葉です。小さな子どものもじも聴かずかような「ありがとう」、感謝し切れないほどの気持ちがかもった涙混じりの「ありがとう」、嬉しさが溢れ笑顔いっぱい「ありがとう」、ふとした瞬間に自然に出る何気ない「ありがとう」。どの「ありがとう」も気持ちがいいと感じます。「ありがとう」の語源は「有り難し」と言われ、有ることが難し(滅多にない、珍しくて貴重だ)という意味を教した言葉だったようですが、私自身は、滅多にないことなんて思わずに、小さな感謝の度に「ありがとう」と言える日々をいつも過ごしていければと思います。(K)

● 本資料に関するお問合せ先 ●

日本原子力研究開発機構 敦賀本部 業務統括部広報課

Tel : 0770-21-5023 Fax : 0770-25-5782 ホームページアドレス <http://www.jaea.go.jp>

発行:平成25年1月16日

JAEA 原子力機構 敦賀本部からのお知らせ

巻頭挨拶

新春を迎え皆様方のご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は、原子力規制委員会の発足、前政権でのエネルギー・環境政策の策定などがあり、さらに、年末の押し迫った時期に衆議院選挙が行われ政局が大きく変化いたしました。

原子力を取り巻く環境は大きく変化してきておりますが、私ども原子力の研究開発を担うものとしては、いかに環境が変わろうとも、自分たち自身が原子力安全の担い手であるとの決意をさらに強固なものとして、業務を遂行してまいります。

本年は福島原発事故への対応はもとより、本来の原子力研究開発についての足元をしっかりと固め、「もんじゅ」での高速増殖炉研究開発と「ふげん」からの先駆となる廃止措置の技術開発を着実に進め、その成果を国内外へ積極的に情報発信し、そして原子力、医学、産業へのレーザー技術利用研究などについても着実に押し進めて参ります。

安全確保を最優先に透明性を持って業務運営に取り組んでまいりますので、本年も当機構の業務運営にご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



敦賀本部長
辻倉 米藏

高速増殖炉研究開発センター

○「もんじゅ」プラント作業状況 紹介



【非常用ディーゼル発電機設備(A系)点検】
(撮影日 平成24年12月13日)



【総合防災訓練】
(撮影日 平成24年12月19日)

「もんじゅ」には、雷や地震等で外部から原子力発電所に供給される電源が喪失した場合に、自動稼働する非常用ディーゼル発電機が3台あります。これらを順番に点検を行い、常に正常に作動することを確認しています。

「もんじゅ」では、(1)大規模地震発生による原子炉自動停止(2)外部電源喪失(3)全ディーゼル発電機機能喪失(4)放射性物質が漏えいして敷地内線量率が上昇等を想定事象とした総合防災訓練を行い、的確に対応できていることを確認しました。今後も訓練を続け、どんな事象にも対応できるよう必要な改善を図っていきます。

“成果展開事業(※1)(気象観測一体型放射線測定装置の開発)”

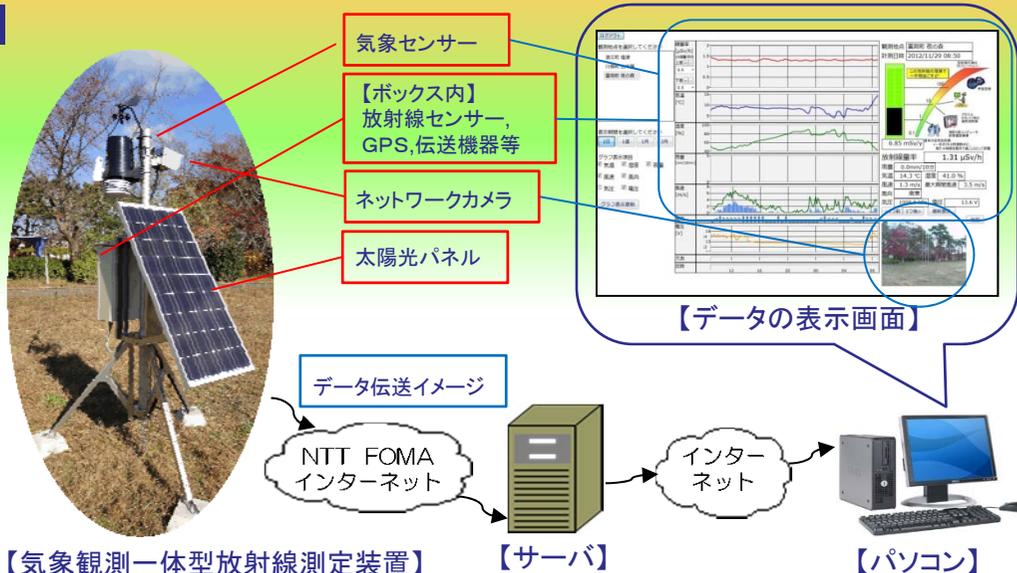
平成24年11月末、成果展開事業(震災対応)で開発した「気象一体型放射線測定装置」が福島県の除染特別地域(浪江町、川俣町、富岡町、飯館村)に設置されました。

本装置は、原子力機構が保有する放射線測定技術の特許と福井県内の企業(山田技研(株))が得意とする気象観測等のセンサー技術やデータ伝送技術を組合せ、共同開発したものです。

気象と放射線による空間線量率を同時に計測できる本装置は、気象センサーと放射線センサー、ネットワークカメラ、太陽光パネル、GPS、データ伝送機器などを一体化した三脚方式を用いたコンパクトな装置であり、気象及び空間線量率の長期経時変化を任意の場所において監視できるものです。

これまで、同一地点で気象と空間線量率の両方を継続的に計測する装置が無かったことから、本装置により、空間線量率と気象条件の関係が解明できる可能性もあり、今後本格化する福島県内のモデル除染事業のフォローモニタリング等にも有用なデータが得られることが期待されます。

※1 成果展開事業・・・原子力機構が保有する特許等の技術を活用し、地域企業の新製品開発を支援する事業。(敦賀本部 経営企画部 技術展開推進グループ)



“レーザー共同研究所成果報告会 開催”

原子力機構は、平成24年12月11日と12日の2日間、原子力機構敦賀本部レーザー共同研究所の「第3回レーザー共同研究所成果報告会」を若狭湾エネルギー研究センターとの共催、福井県、敦賀市、福井大学、敦賀商工会議所の後援により敦賀本部アンプラザで開催しました。



報告会では、福島第一原子力発電所の燃料取出しや廃止措置へのレーザー利用、レーザー切断による血管バイパスの形成や臓器内部のレーザー光治療の医療技術、レーザー溶接などの保守保全技術、原子力、医学、産業へのレーザー技術利用研究の成果29件について原子力機構内外の研究者から発表がありました。会場には、2日間で延べ174名の皆様にご参加いただき、発表ごとに質問、意見が飛び交い、熱気溢れる研究交流の場となりました。

今後、更なる研究開発を進め、地域企業の方々、関係者の方々と研究開発を進め、レーザー利用の普及、発展に貢献してまいります。

さいくろミーティング(地域訪問活動)実績 (平成13年10月～)
件数:1,437件 人数:35,549人 (平成25年1月16日現在)

“もんじゅ研究計画作業部会「中間的な論点のとりまとめ」について”

平成24年12月11日、文部科学省のもんじゅ研究計画作業部会は、今後の研究計画策定にあたっての中間的な論点をとりまとめました。「もんじゅ」で行うべき主要な項目を以下に示します。今後、詳細な計画の策定に向け、更なる検討を行っていくこととしています。なお、本研究計画は今年夏頃までに策定される予定です。

- 1) 高速増殖炉の成果のとりまとめを目指した研究開発
 - 「高速増殖炉開発の成果のとりまとめ」のために行った「高速増殖炉開発における技術の重要度」と「もんじゅを利用することの優先度」の整理結果を踏まえ、炉心・燃料技術やナトリウム取扱技術等の技術項目の達成形態や達成時期を詳細検討し、高速増殖炉プラントとしての技術成立性の確認に必要なデータ及びその取得に必要な研究期間を特定し、研究計画を策定する。
 - まずは「もんじゅ」が設計された通りの性能を有しているか確認を行うため、性能試験実施に向けた準備を行う。
- 2) 廃棄物の減容及び有害度の低減を目指した研究開発
 - 「もんじゅ」においてアメリカシウム241を多く含むMOX燃料集合体の全炉心照射試験を性能試験と同時に開始する。
- 3) 高速増殖炉の安全性強化を目指した研究開発
 - 「もんじゅ」におけるシビアアクシデント検討を踏まえ、評価技術の構築を図る。アクシデントマネジメントの整備と訓練に基づく改良を図っていくとともに、自然循環試験計画を検討する。

(第5回作業部会資料 抜粋)

原子力機構は、「もんじゅ」の研究計画の達成に向けて、安全を第一に、透明性を持って、「もんじゅ」の研究を進めてまいります。

すぐれた技術 確かな安全 世界に示す 新生「もんじゅ」